

# 「確かな学力の育成に向けて」

奈良県教育委員会

## はじめに

これまでの全国学力・学習状況調査の調査結果から、本県の児童生徒は、「国語、算数・数学の成績は比較的よいが、国語や算数・数学が好きな子どもの割合は、全国に比べ低い。」「学校のきまりを守ることや、新聞やテレビのニュースなどへの関心が低く、ルールを守る規範意識や社会性に課題がある。」などのことが明らかになった。

県教育委員会では、こうした課題解決に向け、平成 22 年度は、学力調査活用アクションプラン推進協議会を設置し、同協議会と連携を図り、授業の在り方に焦点を当て、言語活動の充実を図った「授業力の向上」をテーマにして、取組をスタートさせた。

課題解決には「R-PDCA」の検証改善サイクルに基づいて取り組むことが有効であり、このことは、平成 19 年度に作成した奈良県学校改善支援プランでも示してきた。また、毎年度、奈良県学校改善支援プランの追補版を作成し、本年度は 4 年間の調査結果の経年比較と、そこから見られる課題、課題解決に向けた取組を提示した。

## I. 都道府県・指定都市教育委員会 における取組

### 1. 事業内容について

#### (1) 事業概要

県教育委員会では、平成 19 年度の全国学力・学習状況調査の結果に基づき、「奈良県学校改善支援プラン」を策定し、県内の全ての小・中学校、教育委員会に向け、課題の改善に向けた具体的方策を示し、取組を進めるよう指導するとともに支援を行った。

本事業においては、県教育委員会が研究推進校を 5 校指定するとともに研究推進校では、「奈良県学校改善支援プラン」を踏まえ、「授業力の向上」というテーマの下、学習意欲の向上、授業改

善・指導改善の具体的な取組について調査研究を行った。研究推進校には、指導主事等を派遣し、授業改善について具体的な指導を行った。

また、学識経験者、教育委員会事務局職員及び研究推進校代表等からなる「学力調査活用アクションプラン推進協議会」を設置し、全国学力・学習状況調査の結果を分析するとともに、各研究推進校の取組を検証し、指導助言を行うなど研究の推進に役立てるため、年間 2 回の協議会を開催した。本協議会における協議内容を学校改善支援プランの作成に役立てるとともに、学力向上フォーラムや公開授業及び研究発表会を開催して本事業の研究成果の普及を図った。

#### (2) 実施体制

##### ① 学力調査活用アクションプラン推進協議会の設置

学識経験者、研究推進校長、県教育委員会を構成員とした学力調査活用アクションプラン推進協議会を設置し、年間 2 回の協議会を開催した。

##### ② 実践研究の実施

確かな学力の育成に係る実践的調査研究支援委員会の助言を受け、学力向上実践研究との連携を図りつつ、実践研究を進めた。具体的にはアクションプランに基づき、実践研究を行う研究推進校に対し、必要に応じて指導主事を派遣して、必要な指導・助言を行うとともに実践研究の進捗状況を把握した。設置市町教育委員会に対しても研究推進校の取組に対して適切な助言を行うよう指導した。

#### (3) 研究成果

授業の在り方に焦点を当て、言語活動の充実を図った「授業力の向上」をテーマとして取り組み、授業の改善及び教員の指導力のさらなる向上を目指した。

研究推進校では、効果的に授業研究を進めるため校内体制の整備を行うとともに、学習規律の確立や家庭での学習課題など、授業と家庭をつなぐために保護者との連携を図る取組など、それぞれの学校や地域の実態に応じた取組を行った。

また、子どもに満足感と達成感を味わわせると

ともに、言語活動を効果的に取り入れた授業の在り方を追究する実践研究を実施した。さらに、積極的に授業公開を行ったり、研究授業を行ったりすることで指導力の向上に努めた。

## 2. 普及啓発と今後の取組について

### (1) 成果の普及啓発に関する取組

#### ①授業力向上に向けた取組

##### ○学力向上研修会の実施

研究推進校において、全国学力・学習状況調査の調査結果を分析し、明らかになった課題の解決に向けて2回の学力向上研修会を開催した。研修会では、課題改善に向けた授業を公開するとともに、言語活動の充実を図る取組について講演会や実践交流等を行った。

##### ・H22. 12. 3御所市立名柄小学校において

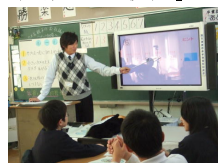
「全国学力・学習状況調査B問題を使った読み取る算数」の授業公開や学校の取組の報告、「学力向上に資する言語活動の充実を目指して」と題した講演会を実施し、活発な協議や意見交流を行った。



【算数コーナー】

##### ・H23. 2. 4 平群町立平群西小学校において

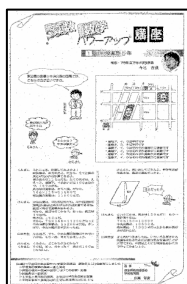
「学ぶ楽しさと分かる喜びを目指した取組」の報告及び授業公開や「これからの算数科教育と言語活動」と題した講演会を実施し、活発な協議や意見交流を行った。



【公開授業の様子】

##### ○算数・数学パワーアップ

##### 講座のWebページへの掲載



算数・数学パワーアップ講座【奈良新聞掲載】

平成21年1月より、全国学力・学習状況調査の算数・数学の問題に基づいた指導例を「算数・数学パワーアップ講座」として、奈良新聞に毎週1回（現在は隔週）連載している。この指導例は、教員の算数・数学科の指導に役立てるとともに、広く県民にも全国学力・学習状況調査の問題やその指導例を紹介し、家庭での学習の参考や共通の話題にもできるよう作成した。また、一部をWebページに掲載することにより広く県内に周知した。

<http://www3.pref.nara.jp/site/dd.aspx?menuid=1364>

#### ②奈良県学校改善支援プランの作成

平成22年度全国学力・学習状況調査の調査結果を分析し、「奈良県学校改善支援プラン」を作成し、Webページに掲載した。奈良県学校改善支援プランでは、調査結果から見られる本県の児童生徒の姿や課題を示し、明らかになった

課題の解決に向けた学校の取組や学校に対する教育委員会の支援策等をまとめた。

[http://www.pref.nara.jp/dd\\_aspx\\_menuid-20259.htm](http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-20259.htm)

#### ③教科等研究会と連携した取組

教科等研究会の活動と連携を図り、研修会・研究大会等の機会に、指導主事が指導・助言を行った。また、小・中学校教科等研究会が作成している学力診断テストに、全国学力・学習状況調査の問題づくりのポイントを取り入れるよう助言を行った。小学校算数科の学力診断テストでは、調査問題とは別に全国学力・学習状況調査の問題に基づいた「考えよう」の大問1問を作成し、その結果についての分析・考察を研究発表会で報告した。

#### ④奈良県学力向上フォーラムの開催

平成23年2月14日、県立教育研究所において、本年度の全国学力・学習状況調査における本県の状況と課題を踏まえた改善の方向性及び確かな学力の育成に係る実践的調査研究の研究成果を広く周知する機会として、「平成22年度奈良県学力向上フォーラム」を約200名の教職員等の参加を得て開催した。



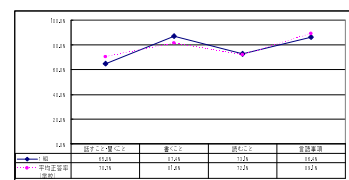
【奈良県学力向上フォーラム】

フォーラムでは、全体会で、全国学力・学習状況調査の分析結果の報告や研究推進校である御所市立掖上小学校と平群町立平群東小学校の実践発表を行った。また、分科会では、学校改善、国語科の授業改善、算数科の授業改善の3分科会に分かれて実践交流や活発な協議が行われた。

[http://www.pref.nara.jp/dd\\_aspx\\_menuid-20265.htm](http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-20265.htm)

#### ⑤平成22年度全国学力・学習状況調査集計・分析ソフトの作成・配付

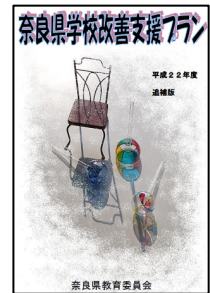
全国学力・学習状況調査を実施校に対して、集計・分析に役立つ県独自の集計・分析ソフト



を作成し、5月に配付した。出力できるシートは①個票（教科に関する調査）②個票（児童生徒質問紙）③クラスと学校全体の比較表④クラス別成績一覧表⑤散布図である。

#### ⑥奈良県教育委員会としてのその他の取組

○県立教育研究所学校教育アドバイザーチームとの連携



学校改善の方向性や具体策を示し、学校経営に取り組む管理職や教育活動に取り組む教員を支援することを目的に各学校を訪問している学校教育アドバイザーチームとの連携を図り、各学校の取組について情報交換を行った。

#### ○県立教育研究所開催の研修講座との連携

県立教育研究所が開催する研修講座において、授業力向上を目指した研修の充実に努めるとともに、基本的な生活習慣の確立や家庭教育の充実にに向けた内容を取り上げ、教員の研修を深めた。

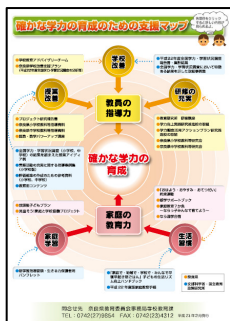
#### ⑦研究報告書ダイジェスト版（リーフレット）及び研究報告書の作成・配付

本事業の取組の概要とその成果等を広く県内に普及・啓発するために、奈良県学力向上フォーラムで研究推進校の実践発表を行うとともに研究報告書ダイジェスト版を作成し、県内全ての小・中学校の教員に配付した。また、各推進校の取組の詳細については、リーフレットに各学校のURLを掲載しWebページで詳細を見られるようにした。

リーフレットには、確かな学力を育成するという観点から教員の指導力や家庭の教育力を高めるための県教育委員会作成の資料等をまとめ、支援マップとして掲載した。



【研究報告書ダイジェスト版】



また、研究報告をまとめた冊子を作成し、県内各学校及び市町村教育委員会に配付し、普及・啓発を行った。

#### (2) 来年度以降の取組

本年度は、授業の在り方に焦点を当て、言語活動の充実を図った「授業力の向上」をテーマとして取り組み、言語活動の充実を図った全校体制での授業力の向上や児童一人一人が思考し表現することを重視する授業の在り方を考える学力向上などの成果を得た。しかし、基本的な生活習慣の確立、学習習慣の定着、規範意識の醸成といった本県の児童生徒に見られる大きな課題については、まだまだ改善の途中である。保護者や地域との連携を図った継続的な取組が必要である。

## Ⅱ. 推進校における取組事例

### 取組事例①

「分かる喜びを知り、自ら主体的に学ぼうとする子の育成」  
～基礎基本の定着を図り、確かな学力の向上を目指す～

御所市立掖上小学校

#### (1) 学校の状況について

平成20年度より「全国学力・学習状況調査結果を活用した調査研究」の実施校として、本校児童の学力向上を目指して取組を進めてきた。過去2年間の取組では、「知識・技能」の部分でほとんどの学年で一定の成果が見られた。その一方で、少し難しい問題に直面した時に「自ら考えようとしないう」「すぐにあきらめてしまう」児童、「活用力・表現力」が乏しい児童の実態や、基本的な生活習慣や家庭での学習習慣が定着していない、単に学校の取組の強化だけでは解決することのできない実態が見られた。家庭の支援、協力を得ながら進めていくことが学力向上には欠かすことができない要素であることを確認し、取組を進めてきた。

昨年度は萱野小学校から、学び合いの授業形態やメタ認知が働く子を育てる具体的な取組を学び、三重大学附属小学校の研究発表会からは、本校でも取り組める内容を多く学んだ。また、すずかけタイムや算数チャレンジタイムの取組も定着し、児童の学力向上につながっている。家庭学習支援研究部から出された保護者への啓発プリントや、生活記録票も、学年末に行ったアンケートの結果、子どもたちの学習意欲向上や保護者の関心の高まりにつながっていることが分かった。

今年度は、より一層基礎基本の定着を図りながら、言語活動を効果的に活用し、思考力・判断力・表現力を高める授業の在り方についての研究を中心に、下記の柱を立てて取組を進めてきた。

#### 主題に迫るための 三つの柱

- 1 教員の指導力を高める取組
- 2 基礎基本の定着を図る取組
- 3 家庭学習を充実させる取組

#### (2) 全国学力・学習状況調査の結果等を活用した取組について

##### ①教員の指導力を高める取組(授業力向上研究部)

本校児童の「全国学力・学習状況調査」結果では、記述式問題の正答率が低い実態がある中で、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を工夫したり、児童の発問や活動の時間を確保して授業を進めたりするなど、言語活動を積極的に取り入れ

た授業を工夫し、児童の主体的な学習を充実させる。

- 各学年の推進計画を立てる。
- 研究授業を通して学び合う。
- 様々な場面における「言語活動」を重視した取組

#### ア 算数科

言語活動を通して付けたい力

算数的活動を通して、計算の意味や計算の仕方・図形の面積の求め方などを、具体物を用いたり、言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いたりして考え、説明・表現する活動を行うことで、数学的な思考力・表現力を育てる。

このことを意識して、どの学年も、児童が課題に対してまず自分で考える。その考えを式・図などを用いてノートに書いたりして、となり同士やグループで互いに意見を交流する。そして、全体の場で相手に分かりやすく説明するといった授業形態を心がける。意見を交わすことの楽しさや、友達の考えからの発見や学び、自分の考えを発表する満足感・成就感を味わうことを通して主題に迫りたい。



【第6学年算数「比」の学習から】

#### イ 朝の会・帰りの会・学級活動などを利用したスピーチタイム

毎日の継続的な取組として、各学年でスピーチタイムを実施している。高学年では、スピーチメモを持たせ、翌日のスピーチで話す内容の構成を考えさせている。また、学級活動や国語の時間を利用して、サイコロトークなどテーマを決めて人前で話したり、聞き合う活動をしたりしている。これらの活動を通して人前で話すことに抵抗をなくしていくこと、人の話をしっかりと聞くこと、互いのスピーチを通して互いを知るという集団づくりにも役立てている。



【第6学年朝の会】 【第1学年帰りの会】 【第1学年自分の気持ちカード】

- 授業公開週間を設けて、授業の公開を行う。参観者が「よかったところ」「気になったところ」などの感想を参観用紙に記入し担任に伝える。
- 算数日記に取り組む。(全学年で徹底する)



【算数日記】

#### 算数日記のねらい

学習内容を振り返り、分かったことや、さらに出てきた疑問に気付くことができる児童を育てる。

#### 児童への働きかけ

今日の算数の時間で、分かったこと、分からなかったこと、友達の考えなどでよかったところなどを書こう。

#### 更なる成長のために

学習を振り返って書いている算数日記をみんなに紹介する。

日記の内容がねらいに合ったものになるように、適切なコメントを書く。

- 各種研修会への積極的参加

名柄小学校 平群西小学校 箕面市立萱野小学校 三重大学附属小学校など

#### ②基礎基本の定着を図る取組（基礎学力研究部）

- 「すずかけタイム」（毎朝の15分間）を活用し、日常継続的な取組を充実させる。
- 「読書の木」「読書カード」の作成（校内環境整備）
- 「話し方の基本話型」「学習規律」の作成（教室環境整備）



【読書の木】

【読書カード】

- 算数チャレンジタイムを実施し、低学力の克服に努める。(火曜日放課後)

ア 毎週火曜日放課後実施。(第1、2学年は6時間目。第3～6学年以上は7時間目。)

イ 算数科に課題をもつ児童を対象に行う。

ウ 対象児童については、保護者に主旨を説明し、理解を得る。

エ 学習内容については、各学級担任が児童に合った課題を設定し、指導する。

オ 算数に対する苦手意識の克服や分かる喜びを味わわせる。

- 授業開始10分間で行う基礎学力の充実

ア 国語……ミニ漢字テスト(その日のうちに返し、次への意欲をもたせる。)

音読(教科書教材を順番に読ませる。)

イ 算数……百マス計算等、「数と計算」の領域に絞った復習を行う。

第4学年以上では、特に筆算の定着を図る。

- 個に応じた学習に対応した問題データベースの導入

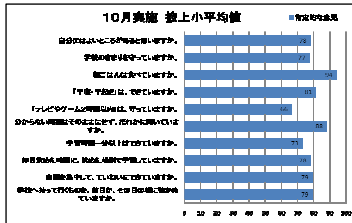
〈活用例〉

- ・各単元の「ドリルプリント」を家庭学習にして取り組ませ、確かめさせる。

- ・各単元の「ドリルプリント」「フォローアッププリント」「たしかめプリント」「チャレンジプリント」と各自の習熟度に合わせて取り組ませる。

### ③家庭学習を充実させる取組(家庭学習支援研究部)

○家庭学習についての実態アンケートを実施する。



○家庭学習の内容や量などについて全職員で共通理解を図る。

○保護者への啓発を図る。(低・中・高学年別にプリントの配布)

- ・家庭学習の重要性に関する学校の方針を伝える。
- ・家庭における学習時間の確保。
- ・基本的な生活習慣についての呼びかけ。(早寝早起き・朝食・ゲームの時間等)

○生活記録票

・月1回、一週間を通して家庭学習の状況の把握。(保護者が生活記録票にコメントを記入)

○生活アンケートの実施(5月・7月・10月・2月に実施)

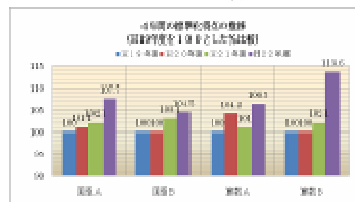
○成果として見えてきたもの

- ・アンケートをとることで、教員側のねらいが明確になり、学級での声かけが具体的かつ継続的になった。
- ・分析・考察を行うことで、児童の家庭での学習状況について考え、学習時間だけでなく「学習の質」に目を向けることができた。
- ・分析・考察を行うことで、家庭との連携も課題を明確にして行うことができた。
- ・学級では、宿題の提出物がなかなか揃わなかったのが、一回で揃うようになった。また、漢字や計算もていねいに行う児童が増えた。

### (3) 成果について

#### ①全国・県との比較から見た学力

○全国学力・学習状況調査結果



[グラフ1]

平成19年度の本校児童の標準化得点を100とし、この4年間の標準化得点を算出した。

対象児童が異なるので一概には言えないが、今年度は、正答率が国語A・算数A・Bで0.3～3.1ポイントではあるが、初めて県平均を上回った。下回った国語Bでも、2.5ポイント差であった。この2年間の成果と考えられる。

○県学力診断テスト結果

国語科においては、第5学年を除いて県平均を下回っているが、平成21年度に比べて、その

較差は縮まってきている。

算数科においては、第1学年を除いた全ての学年で県平均を上回った。特に第6学年は、前年が-1.2であったのが今年は+13.5となり、約15ポイントの上昇となった。同様に第2学年も-8.8から+1.6と約10ポイントの上昇が見られた。算数科に絞った取組の結果が表れてきた。

○指導工夫の改善に関するアンケート結果(第6学年対象)から

<評価指標2>

・「普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられているか」

肯定意見(4月)54.0%→(1月)94.2%

・「普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思うか」

肯定意見(4月)54.0%→(1月)91.9%

・「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは苦手ではない」

肯定意見(4月)29.8%→(1月)41.6%

○学習意欲の向上に関するアンケート結果(第6学年対象)から <評価指標3>

・「教科の学習が好きですか」という質問に肯定的に回答する児童の割合と、「教科の学習が大切だと思いますか」という質問に肯定的に回答する児童の割合の差を縮める。

|    | 4月    |       |       | 1月    |       |       |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|    | 好き    | 大切    | 差     | 好き    | 大切    | 差     |
| 国語 | 59.4% | 86.4% | 27.0% | 70.2% | 97.3% | 27.1% |
| 算数 | 37.8% | 83.8% | 46.0% | 89.2% | 94.6% | 5.4%  |

・「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしているか」

肯定意見(4月)43.2%→(1月)51.4%

・「国語の授業で意見を発表する時、うまく伝わるように話の組立を工夫しているか」

肯定意見(4月)37.8%→(1月)51.4%

・「国語の授業で自分の考えを書く時、考えの理由が分かるように気をつけているか」

肯定意見(4月)67.7%→(1月)86.5%

・「算数の授業で新しい問題に出会った時、それを解いてみたいと思うか」

肯定意見(4月)70.3%→(1月)91.9%

・「算数の問題の解き方が分からない時は、あらかじめいろいろな方法を考えるか」

肯定意見(4月)67.8%→(1月)83.8%

・「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか」

肯定意見(4月)45.9%→(1月)59.5%

・「算数の授業で問題を解く時、もっと簡単に解く方法がないか考えるか」

肯定意見(4月)75.7%→(1月)81.1%

・「算数の授業で問題の解き方や考え方が分か

るようにノートに書いているか」  
肯定意見（4月）62.2%→（1月）83.8%  
・その他  
「自分にはよいところがあるか」  
肯定意見（4月）54.0%→（1月）78.4%  
〈考察〉

○評価指標2では、「自分の考えを発表する機会」や「友達と話し合う機会」が大幅に増えているにもかかわらず、「自分の考えを発表したり、文章に書いたりすることが苦手」な児童が多いことが分かった。算数科だけでなく、いろいろな教科や場面でこのような経験を重ねる必要がある。

○評価指標3では、まず、「好き」と「大切」の差を縮める項目では、国語科では「差」は縮まらなかったが、「好き」と「大切」がともに10ポイント上昇している。算数科では、「好き」が大幅に上昇し、「差」はかなり縮まった。

このほか、全体的に国語科に比べて算数科に関する項目で数値が上昇している。これは、昨年度・今年度と算数科に絞って取り組んできた成果といえる。同時に、言語活動の根幹を培う国語科での取組が不足していることの証左でもある。自己肯定感については、24ポイント上昇した。これは、学力向上の取組だけでなく、学級経営の充実に向けた様々な取組があいまった結果である。

#### （4）来年度以降の課題について

平成19年度の本校児童と全国との「較差」に衝撃を受けてから、あっという間に3年が過ぎてしまった感がある。1年目は、とにかく本校児童の学力の実態を何とかしようという思いで、先進校の取組に学びながら体制づくりや取り組むべき内容を明確化して取り組んだ。それこそ全教職員が同じ目標を共有し、実践していこうという意識や雰囲気確立した年であった。そこでできた流れは、2年目そして今年度と確かな取組へとつながっていったと実感している。

「教員の指導力を高める取組」「基礎基本の定着を図る取組」「家庭学習を充実させる取組」を三つの柱として全員で取り組んできたという一体感の中で、少しずつではあるが成果は上がってきている。基本的な生活習慣や学習習慣、規範意識など、数値的にはまだまだ低いところがある。なかなか協力がもらえない保護者も少なからず存在する。まだまだ取り組むべき課題は山積している。とりわけ、(2)でも述べたが、今年度取り組んだ言語活動を重視した取組を他の教科等にさらに広げていかねばならないと考えている。

## 取組事例②

### 「分かる授業づくり」

～よみとる算数～

御所市立名柄小学校

#### （1）学校の状況について

—わくわく・ドキドキ・みつけた！—

児童が「わくわく」しながら目を輝かせ、やってみようとする授業の設定、「ドキドキ」しながら、児童の興味・やる気が持続する授業の展開、児童自らが「みつけた！」と気付き・発見のある授業内容である「分かる授業づくり」をテーマとし、研修を深めてきた。

さらに、本校における県学力診断テスト結果の考察より、「読み取りの力が弱い」という児童の実態が明らかとなった。本年度は特に「読み取り」を重視した研修を行ってきた。そのような中で「学力調査活用アクションプラン」を推進した。特に工夫した点は

- ・指導案と指導方法の研究（学校教育目標を合い言葉に！）
- ・職員研修の工夫
- ・環境づくり（人的、物的）
- ・研究冊子の作成（夢Ⅱ）

であるが、学校運営組織を改革し、部会を多く活用したことがこの事業を推進できた一つの要因であると考えられる。

「環境づくり」は、「算数ランド」と名付けて多目的ホールに領域別で量や図形などを体感できるコーナーの設営に今も取り組み続けている。他教科との関連が算数科でいわれているが、それを可能にする一つの工夫になったと思われる。

#### （2）全国学力・学習状況調査の結果等を活用した取組について

算数科の学習指導要領の改訂を受け、本校では、これまでの算数的活動を見直し、工夫・改善を図ることで、児童に「算数は楽しい」「算数はおもしろい」「算数は生活に役立つ」と感じさせたいと考えた。また、このことは、算数を学習する意義に気付かせることにもつながる。

自分の考えを表現する活動や説明する活動も重視されている。つまり、これからの実践で求められていることは、これらの算数的活動を通して自分なりに考えたことを表現し、説明できる力を伸ばしていくことである。

そのためには「分かる」ということが重要になってくる。本校では、「授業が分かる」ということに力を入れてきた。

それには、教員が「分かる授業」を目指し、指導力を付けることが重要である。職員研修を何度も繰り返した。その基になる「児童の実態把握」いわゆる低学力になっている課題の追究をした。

県学力診断テストの考察はもちろん、平成19年度から始まった全国学力・学習状況調査の分析・考察を校務分掌で3年前に立ち上げた学力推進委員会で繰り返し行い、研修部と連携し、職員会議で課題を追究した。

そして、本校では「よみとる算数」を中心に、確かな学力の育成に「学力調査活用アクションプラン」を活用して取り組んだ。

以後、その取組を具体的に述べる。

### ①「全国学力・学習状況調査」の分析から出てきた研究課題と取組の実際

自ら学ぶ子どもを育てる授業の創造

- ・「基礎・基本」の定着を図る。
- ・「分かる授業」を目指す。
- ・算数科における環境教育を推進する。
- ・算数科における「読み取り」の学習指導法の研究をする。
- ・教員の授業力の向上を目指す。

### ②研究計画

- ・学校評価による課題と反省
- ・学力向上の手立て（研究授業と研修部、指導部、学力推進委員会の計画的な話し合い）
- ・具体的取組の実施（授業研修及び公表）
- ・家庭、地域との連携（インターネット、学年だより等）
- ・他教科、各部との連携（職員会議による共通理解）
- ・研修報告の伝達（その都度：印刷物等）
- ・県学力診断テスト、全国学力・学習状況調査等の考察を有効に利用し授業を展開する。
- ・次年度へ向けての反省と確認（成果、課題、改善・対策）

### ③学力調査活用アクションプラン日程(略)

### ④授業公開・取組の経過

平成22年12月3日（金）公開授業

第5学年 授業者 河井 秀太

「B問題を使ったよみとる算数」

—全国学力・学習状況調査結果の考察より—  
（本校の全国学力・学習状況調査問題の正答率の低いところ）

- ・御所市立名柄小学校の取組の報告  
報告者 校長 筒井 通子
- ・指導講評 県教育委員会事務局学校教育課  
指導主事 椿本 剛也
- ・講演 演題 「学力向上に資する言語活動の充実を目指して」  
講師 奈良教育大学 教授 棚橋 尚子

ア 指導案の工夫

本時案にし、授業者の思いが見る方々に通じるようにした。

- ・授業の運びが分かる。
- ・意図や取り上げる活動のねらいが分かる。
- ・児童の活動と児童への関わり方が分かる。

## イ 第5学年 算数科学習指導案

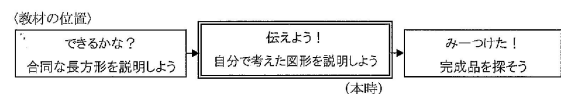
単元名「伝えよう！—自分の考えた図形を説明しよう—」

本時のねらい

- ・問題文から課題を読み取ることができる。
- ・図形の特徴について言葉を使って表現したり、理解したりすることができる。

本時のポイント《略》

### ○本時の教材について



《教材の押さえどころ》

設計図を使い本立てを構成する。残りの板を「合同」に分け、その形をみんなに分かりやすく説明することができる。

### ○授業の構成について

- ・教材へのせまり方
- ・平面（設計図）から立体（本立て）を想像しにくい児童が、活動を進めやすいように実物を用意したり実際に組み立てたりできる展開（前時）を計画している。
- ・長方形を二つの合同な形に分ける際に、既習の平面図形の知識を活用させることができ、言葉を用いて説明させることで図形の定義を深めることを期待している。

### ○分からせる方策

全国学力・学習状況調査の結果により、本校の児童の特徴として、B問題に代表されるような文章題の読解力や知識を活用する力が弱いという課題が出た。そのような課題に、どのように取り組んでいくかを考えたとき、平素の授業におけるスモールステップでの学習パターンが生かされることが大切であると考え、以下のようなパターンを展開することを計画した。

### ○工夫したこと



- ・自分の考えを深められるように、グループでの話し合いを用いた。
- ・グループ学習では、どの児童も活発に意見を出せるように1グループ3名とした。
- ・児童から考えられた設計図を基に完成品を用意し、自分たちの考えがどう反映されていくのかに興味をもたせるよう工夫した。

### ○学習集団・形態などのこと

### ○児童への配慮

### ○公開授業

指導案の工夫

